

平成 27 年度 第 2 回京丹後市総合教育会議 会議録

- ・日 時 平成 27 年 11 月 18 日 (水) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
- ・場 所 京丹後市役所 (3 階) 302 会議室
- ・出席者 京丹後市長 中山 泰
京丹後市教育委員会 委員長 小松 慶三
同 委員長職務代理者 文珠 清道
同 委員 森 益美
同 委員 野木 三司
同 委員 (教育長) 米田 敦弘
- ・次 第
 - 1 あいさつ
 - 2 議題
 - (1) 京丹後市教育大綱について
 - 3 報告及び意見交換
 - (1) いじめ防止対策について
 - (2) 次年度からの小中一貫教育の全市展開について
 - (3) 地方創生と教育について
 - 4 その他
 - 5 閉会
- ・傍聴人 なし

(企画総務部長) ただいまから平成27年度第2回京丹後市総合教育会議を開催いたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、第1条の4第1項の規定に基づき、本市の教育の振興に資するため設置するものでございます。

本日の司会進行を務めさせていただきます企画総務部長の木村でございます。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、開会にあたりまして、中山市長からご挨拶を申し上げます。

1 あいさつ

(中山市長) 皆様、こんにちは。

本日はお忙しい中、第2回の総合教育会議にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。

教育委員長、教育長をはじめ、教育委員会の皆様には、日頃から本市教育行政の推進にあたり、いろいろな形で、子どもたちを真ん中に置いて、ご指導取組をしていただいております。大変心強い限りでございます。この場をお借りして感謝の言葉を申し上げたいと思います。いつもどうもありがとうございます。

さて、この総合教育会議は、冒頭木村部長が申し上げたような趣旨で開催をされ、第1回の会議をこの春に開催させていただき、いろいろなご意見をいただいたところでございます。とりわけ大綱については、大きな方向性をいただいたというふうに思っています。去年様々な住民の皆様を巻き込んで、懸命に作っていただいた教育振興計画、これを基本にして、付加するようなこと、あるいは留意するようなことがあればそれを加えたような形にしていこうということで、学校支援ボランティア、食育、図書館活動など、いろいろなことについてご指摘をいただいたところであります。

今日は、そういったことを踏まえて今後、大綱づくりの手続きなり、基本的な考え方を確認するというようなことが予定をさせていただいているわけですし、更にははじめの問題、あるいは小中一貫教育の全市展開、さらには、地方創生が叫ばれている中ですので、地方創生と教育についてご審議をいただくこととしています。

少子化が進む中で若い人をどうしていこうかといった時に、一方で高校の再編の議論が京都府中心にされているということですが、そういったことの中で、我々としてどのような声を出していくか。個人的には、そういう中だからこそ特色のあるいろいろな努力をしていただくことによって、他地域から丹後の高校に来てみたいという人たちがたくさん出て来るような、そんな教育を掲げてやるのが大切ではないかと思うわけですが、いろいろなご意見があろうかと思

ますので、この場でご意見を出していただいて、声をあげていきたいなと思います。今日のテーマに関わらず様々な面で意見交換ができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(企画総務部長) ありがとうございました。

それでは、議題に入ります。

本市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、中山市長が議長となりますので、中山市長、よろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 京丹後市教育大綱について

(中山市長) それでは議長として進めさせていただきます。

次第2、議題(1)京丹後市教育大綱について、事務局より説明をお願いします。

(教育総務課長) 失礼します。教育委員会教育総務課の中村でございます。

京丹後市教育大綱についてということで、資料1を用意させていただいています。教育大綱につきましては、先ほどの資料のご挨拶の中にもありましたが、今年の6月12日に開催された第1回の総合教育会議において、教育大綱については教育振興計画をベースとしながら、さらにそこに加えるべきもの、または留意すべきものがあれば、そこにかぶせていって検討していくという方向性を確認していただいたところございまして、そのことを受け、教育大綱の策定について、次の考え方を基本として策定をしていってはどうかということで提案をさせていただいているものです。

1つ目の、策定の留意点につきましては、教育大綱を策定するにあたり、市民の声を広く聞く場の設定も検討をしていくということ。それから、そういった経過を経て、来年度を目途に策定をするということ。それまでの間につきましては、現行の京丹後市教育振興計画を教育大綱とみなすというなことで、教育大綱の策定についての考え方としたいということですので、ご協議をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(中山市長) ありがとうございます。

それでは、意見交換をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(小松委員長) 京丹後市の教育大綱については、京丹後市教育振興計画を十分に精査して、なおかつ市民の声を広く聞くということは、原点に戻った形の中で、市民

の方のそれぞれのご意見を参考にしながら大綱の計画を練っていく。既に教育振興計画の中で、目指す子ども像であるとか、京丹後市が目指す教育という形で示してあります。それが、より一層発展する形の中でまとめあげられたものができることを期待しています。

(米田委員-教育長-) 教育委員会は、いろいろな事業の中で市民の声を聞く場所を設定してまして、当然この振興計画にも20人を超える委員さん方にかんりの回数集まっていたいただいて作ってきました。それから、その他、今している小中一貫教育がどんなものかを見ていただくために教育フォーラムを開催しています。その中での感想や、いろいろ出ます意見の中に、非常になるほどと思うこともあり、どういう形であるかということは考えていかなければならないと思いますが、声を聞きながら進めていくということについては賛成と言いますか、問題も何もないし、かえって大事なことだと思います。ただ、振興計画は1年余りかけて作っていますのでそれが曲がるようなことになると具合の悪いことが出て来ると思いますので、それを基本にしながらということをお願いします。

(中山市長) ざっくりばらんな話なのでざっくりばらんに申し上げますが、内部で議論させていただいた時に自分の問題意識としても申し上げたことではありますが、ここでは、前の会議で確認したように、市民の皆さんや関係者の方に作っていただいた振興計画をベースにしていこうと。加えて、先ほど申し上げたようなことを加えてやっていこうということは当然変わりなく、我々としてはそういうことではあるのですが、今もそれは変わっていない。変わっていないのだけど、教育振興計画に関わった市民の方と関係者と、そして我々だけで非常に大切な教育大綱というものを、市民の皆様いわゆるパブコメ的な手続きで案を取ってしまった、これでやるよということをやってしまうことが良いのか。手続きの問題として、もう少し丁寧に、我々はこのように考えますがどうですかと、開いて聞きながら、説明をするということですね。説明をして、意見を聞き、なるほどということがあればそれは取り入れていけば良いと思いますが、今の首長議会の体制が、4月に任期を終えるという直前の段階でもある中で、急いで我々だけで決めきってしまうよりも、もちろんここにありますように現行の教育振興計画を教育大綱とみなすということは必要ですが、体制の変わり目ということもあるし、それを正式な大綱とするにはもう少し市民に知らせて行った方が、特に大綱は、みんなで教育をしていこうという精神が入っているので、そういう意味でも、案の状態を考え方を市民に説明して、一緒になって作っていくという手続きを踏んだ方が良いのではないかという思いも言わせていただいて、今回こういう案を出させていただいているということです。またそのうえで、そういう考え方も含めて、いろいろなご意見をいただければと思います。

(文珠委員長職務代理者) 京丹後市教育振興計画を基本とすることはとても大事なこ

とだと思えます。しかしながら、どうしても教育振興計画は幼小中の教育、学校教育が中心の計画になりますし、大綱ということで見ますと、学術及び文化の振興に関する総合的な施策を大綱ということが書いてありますので、やはり教育委員会と市とが一緒になって見ていくということも重要なポイントだと思えますので、そこもあわせて交流なり、思いなりをあげていただいたら良いかなと思えます。

(野木委員) 私も、中山市長が説明された方針でされるということに賛成です。この大綱に関わって、これで市民の方に提案できると自分なりに自信を持っているのですが、できあがってから再度検証する中で、もう少しここを色付けと言いますか、こうあるべきかなという部分が、実際に細部にわたってはあります。そういったところを教育委員として意見を言わせてもらうような場面があれば、さらに大綱がより市民の目線で、市民のための施策になっていくような気がします。もう一度チャンスを与えられたような、そんな感じがしますので、是非。失敗したという意味ではなく、さらに強化する意味で、もう一度意見を言える場があると良いなという気がしています。

(森委員) 私も、やはり専門家だけの意見ではなく、市民がどのように考え、感じておられるのかは、すごく大事なことだと思うので、広く市民の声を聞くということは本当に大切なことだと思います。ただ、その中で、一から十まで聞くのではなく、選別はしていかないといけないと思えますし、聞いてもらえなかったのではなくて、聞かれたけれどもこうだったというようなことがしっかりとと言えるような形でした方が良いなと思えます。

(中山市長) 全員の方からご意見をいただきました。さらにあればどうぞ。

(米田委員-教育長-) 確かに、大綱を決めるのは地方公共団体の長が決める。そして、決める時や変更する時には、総合教育会議の意見を聞いてということがありますが、言葉だけでいくと、本当に独断的に示すような色合いがしないこともないですね。そうした意味で、こうやって広く市民に意見を聞きながらやっていくことについては、温かさもあるし非常に良いと思います。おそらく、どこも取り掛かっているところだと思いますが、私が聞いている範囲では、市民の声を聞いてやろうというところはあまりないです。そういう意味では、ひょっとしたら、先導的になって、よそもこうしたら良いなと思うところが出てくるのではないかと思ったりしています。

(中山市長) 聞く場の設け方も、例えばワークショップみたいにするとしても、教育大綱ということを中心に聞くのですが、全国で地方創生が問われる中でとか、あるいは総活躍とか言われる中でとか、そういう大きな流れの中でどう考えるかというような、脈絡も一方で少し持ってやると、いろいろな、まさに地方創生の産官学金労言で、聞いてやるようにという流れの中からも、子どもたちも含めて市

民の意見を聞けるようになるのとみんなで頑張っていこうという雰囲気づくりにもつながるのではないかという感じがして、その辺を上手にしていけば良いのではないかと思います。

では、この案に書いてある方向で、詳細な段取りについては、教育委員会と企画の方で相談していただければと思いますのでよろしくお願いします。

3 報告及び意見交換

(1) いじめ防止対策について

(中山市長) 次に、報告及び意見交換、(1) いじめ防止対策について、教育長よりご説明をお願いいたします。

(米田委員-教育長-) 資料2に、いじめ防止等の取組について書いてあります。読むと時間がかかりますので目を通していただければと思います。学校教育の中で、それから、教育委員会の社会教育的な事業の中で、いろいろな取組を例年にも増して精力的に実施していると思っています。

つい先日ですが、全国的にいじめの調査をしている中で公表があり、京都府はトップの類にあるということですが、数字だけでいくと京丹後も非常に多いわけです。京都府教委の方針で、子どもがいじめだと感じたことは、教師の方でこれはいじめではないとかそういうことは言わずに、感じたものは全てあげるという非常に厳しい件数のあげかたをしています。

簡単に数字だけ申しますと、第1回は1学期の様子を全国的に調べたものです。京丹後市の場合、調べた人数は小学校で2,837名です。その中でいじめを受けたと言う子どもたちの声は438名で、解消はその内の434名で、99.0%解消したということになります。ということはあと0.1が第二段階にまわっているということになります。中学校は、いじめの調査をしたのが1,722名です。いじめを受けたと回答した子どもたちは74名。解消率は、94.5%で、70名が解消したということです。府全体の小学校は97.7%の解消となっています。府の中学校では91%の解消率です。

いじめの中身ですが、小学校ではひやかし、からかい、仲間外れ、わざとぶつかって来るというようなものがあります。中には、ひどくぶたれるというのも2件ありました。中学校では、ひやかし、からかいが一番多くて7件。仲間外れ、軽くぶつかられる、ひどくぶたれるということがあります。あとの第二段階にあがっていますのも、まだ子どもが引き続きしていて、100%解消ではないということですが第三になるようなものは現在ありません。府下でも第三段階になるものは小中それぞれ1件と2件であると新聞で報道されていたと思います。そうした意味で、これについては厳しく見ていき、徹底的な取組をしています。

いじめ件数の経年の変化ですが、どの学年も減少傾向にあります。ただ、小学校の方は以前から少ないので3件や4件で上がったり下がったりですが、中学校では全体的に下がってきています。

つい先日も、教育委員会で、いじめの専門部会の第2回目を持ちました。経過報告と今後の進め方等についてご意見をいただきました。以上、大雑把な報告で申し訳ありません。

それから、気を付けなければならないのが、インターネット等によるいじめがわかりにくいということです。この前も京都市内の小学生が大麻を吸ったというニュースがありましたが、たまたま先生に子どもが言ったからわかったものの、あれも担任が気がつかずいたら誰も知らずに進んでいるということになります。メールやインターネットのいじめについては本当に目に見えませんが、これについてどのような注意を払っていくか、学校でも努力して調査してもらっています。丹後の中にも重大な問題が隠れていないとは言い切れませんので。

(中山市長) ありがとうございます。ご質問等ありましたらお願いします。

司会の意見は最後ということがありますが、ざっくりばらんな場ですので言わせていただきます。教育長から報告があった中で、小学校で2,837名中438名、中学校は1,722名中74名ということで、小学校の場合は15%ぐらい、中学校の場合は4%ぐらいで、3~4倍の開きというのはなぜなのか、何か分析はされていますか。

(米田教育長) 小学校は、他の問題事象についても全国的にもすごく増えてきています。なぜかというあたりが教育関係者の集まりで問題になるのです。しかも3、4年生が非常に多いと言われています。

ひとつは、小学校なので、「こんなことはいいわ」ということはなく、いじめの調査と言うと「僕もされた」「それなら僕もされた」というような数字もひょっとしたらあるかもわかりません。その点中学校はあっても言わないということがあるかもわかりませんが、京丹後市の中学校の様子を見てみると、数年前とか、私たちが担任をしていた頃と違って、生徒がいろいろなことに集中して取り組んでいてくれて、不登校の減ってきている率なんかもあわせて、納得できるなど思っています。

(中山市長) 京丹後市以外の地域の、小学校と中学校の割合の差というのは同じような感じですか。

(米田委員-教育長-)

他の地域まで詳しくは調べていませんが、府全体で見ても、小学校が増えたと言われています。

(中山市長) 今教育長がおっしゃっているのは過去に対して現在ということだと思いますが、小学校と中学校の差についても京都府全体と同じようなことですか。

(教育次長) 小学校の方が多いです。教育長がおっしゃったように、低学年の場合は、ちょっとしたことでも自分が嫌だったらいじめというふうに書いてしまう傾向があるので、どうしても数が多くなってしまいます。

(中山市長) 中学校になると、同じことがあってもいじめとは思わないようになるということですね。ということは小学校も高学年になるにつれて少なくなっているということですね。

(教育次長) そうです。

(中山市長) この第二段階の4名・4名も、それぞれ順調に解消に向かっているのですね。

(米田委員-教育長-) そうです。いわゆる新聞にはいじめが問題で中学校の場合は不登校になったという例があって、不登校が解消しない限り解決しませんが、そのような深刻なものはありません。人間関係やらでスカッと100%解決していないので、Dにあげている段階です。今頑張って学校で意識して取り組んでいただいているので安心しています。

(教育次長) 一応第二段階であげているのは経過観察的なものです。一旦は解消しているのですが、経過を見ていないとぶり返すこともあるので経過観察をしているものが第二段階にあがっています。

(中山市長) 昔より少なくなっているという関係で言うと、小中一貫でいろいろと交流していることもプラスの影響を与えているということですか。

(教育次長) そうですね。いじめもそうですし、明らかに不登校が減ってきているということです。

(中山市長) 京都府内各地域でいじめ防止の取組はそれぞれで協議会が立ち上がったのではないかと思います。お互いの取組を紹介するような情報交換の場は、府下全体でまだそこまでいっていないのでしょうか。

(米田委員-教育長-) ないですね。もしあるとしたら、教育長会が話題にしたらできるぐらいです。いじめの組織をどうしたかということとはとても大事なので協議しなければなりません。教育長会もたくさん議題を持っているので協議できていません。ただ、いろいろなところでちょっとした雑談的な会話をしていますと、京丹後市は取組の流れについては頑張っている方だと思っています。先ほど言いました、弁護士さんやいろいろな関係機関に集まっただく専門部会は、よそは旅費もいるし大変だということで電話で済ませているところもあります。うちは2回きちんと持っていますし、今回は2月ぐらいに報告の会を持とうかと話しています。

いじめについては、いつ何が起きるかわからないので徹底的に取り組みたいと考えています。

(中山市長) 他の施策の部分での発想ですが、良い意味で目立ちたいと思った時には、

全国の面白いことをやっている仲間を呼んで、シンポジウムをやろうかとか、そういうようなことをすぐ考えてしまうのですが。例えばいじめはどのような取組をして、小中一貫はこうだとか、言い合って交流するとお互いに勉強になるし、いじめ防止に向けて京丹後が頑張っているというPRにつながる。そういうことをよく他の分野ではやるのです。いじめ防止が馴染むかどうかはわかりませんが。

(教育次長) いじめの関係ではそういうのはないですね。

(中山市長) ないからやるとか。大津とかを取り込んでやるとか。ちょっと過激になるかも知れませんが。

(野木委員) そういう意味では、いじめの問題で情報があつたということはまだないのですが、最近京都府の教育委員の研修会の在り方が少し変わってきたと感じていまして、今までは講演だけ聞くという形が多かったのですが、最近はそのそれぞれのテーブルごとに委員どうしていろいろな問題を話して、KJ法で解決方法を見つけていくとか、いろいろな情報を共有したり問題を解決していく手法を学んだりといった研修会になっていますので、そういうところで今のようないじめのテーマが出てきます。過去に出てきたのは出てきましたが、何も響かなかつたのでちょっと覚えていませんが、そういう手法で研修会が開かれていますので、その中での情報をいただくとこちらもまた発信できると思います。

(中山市長) そういう場でいろいろな情報をお互い発信し合って、良いところを真似していけばお互いの取組の向上につながっていくと思います。

(教育次長) いじめネットワークみたいなことをすると、大変なことが京丹後市にあるように捉えられるのでは。

(中山市長) 打ち出し方を、前向きにつながるような、子どもたちどうしが、何と云うか、いじめ防止という、マイナスをいかにゼロに持っていくかという文脈のことではなく、プラスの部分で、結果としてそれがいじめ防止につながつたというような打ち出し方ですね。

(教育次長) 最近、小中一貫関係の視察が多いです。また来週、再来週、静岡から来られると聞いていますし、この2ヶ月ほどで3件ぐらい来ていますね。

(中山市長) 分離型の小中一貫ですか。

(次教育次長) 大学の先生には高乗先生に以前からお世話になっていたのですが、京丹後市の小中一貫が広まっているみたいですね。

(中山市長) そういう成果も、不登校の減少につながっているのですね。

ざっくばらんな話になりましたが、このテーマについて何かありますでしょうか。

(米田委員-教育長-) 社会教育のいじめに関する取組としては、講演や、街頭啓発などを行っています。先日報告書に目を通して見ますと、高校生が赤ちゃんの世話をする報告が社会教育からあがってきていまして、ずっと見てみると写真やらがあつて、赤ちゃんのおむつを替えたり、抱っこをしたりしている高校生の表情を

見るとものすごく良いのです。ちょうど昨日か一昨日の朝のニュースで2歳の子どもにたばこを吸わせている動画をネットで広げて喜んでいる親の事件がありましたが、社会教育の報告書にあるような経験をしていれば命の大切さがわかって、あんな親にはならないだろうなと思いました。全市民対象の事業に比べると、そういう家庭教育と言うか、子どもを持つ親、これから親になる人対象の事業で広がり具合はたいしたことないと思いますが、着実にいじめ防止や人権を大切に取る取組につながってくるのだなと思って見ていました。

(中山市長) 社会教育でもいじめ防止につながるような取組があるというのは良いですね。

(米田委員-教育長-) どうしてもいじめを全面に出すと講演ぐらいしかできない。

もっと良いものがあれば、青少年健全育成会も6町でできましたので、そういうところを中心にしてやるということもできます。また名案があったら教えてください。

(中山市長) 子どものいじめではないのですが、職場やいろいろな場でのいじめとも何か文脈づけて、子どもの世界は大人の世界の鏡だということもあるでしょうけども。

また、いろいろな模索を事務局の方で考えていただければと思います。ということでこの議題は終わりたいと思います。また、後々その他のところでご意見を聞かせていただければと思います。

(2) 次年度からの小中一貫教育の全市展開について

(中山市長) 次に、次年度からの小中一貫教育の全市展開について、事務局から説明をお願いします。

(米田委員-教育長-) 小中一貫教育の流れについては、今まで何度も言っていますし、関係者ばかりなので省略させていただきますが、来年度から全ての中学校区、6中学校区で実施することになります。来年度からのところも昨年や一昨年ぐらいから、中学校区の先生が集まったり、小中一貫教育の推進担当が集まったりして進めており、リズムに乗っているなと思っています。よそから視察が来るといった話がありましたが、視察の先生方に京丹後市のそういう取組を言うと、「これはうちではできないなと」言われるぐらい精力的に取り組んでくれています。本庁に勤務している指導主事たちは教育次長と連携を取りながらやってくれています。

また、こちらからも、小中一貫の大きな研究発表会があれば、精力的に出かけて行って、明日も松江の方で大きな大会があるので、そこで学んでこうということで行きますし、奈良の方でもあるということで、学ぶ意欲もどんどん見せながら、京丹後に良いところをどんどん広げたいと思っています。

ひとつは、小中一貫教育で確かにいじめもなくなったし、小中の関係で良いムードというのはいろいろなところで出てきています。特に小学校高学年が中学校に対しての中1プロブレムと言われるものがなくなって、「早くお兄さんたちとしたい」という気持ちを持ってきているということは非常に大きなことだと思いますし、学力も、小中一貫の成果だと決定づけるのは早いですが、そこそみんな努力しているということになっています。今度は6つの中学校が競い合いながら、自分のところの学園ではどんな特色を出そうかということに発展していけば良いなど、そういう布石をするのが28年度かなと思っています。そういう活気ある小中一貫教育というのを是非したいと思っています。活気があれば生徒も燃えるということですので、いろいろな意味で力を出していく。学力も当然ですし、いじめにしても、どう活気づけてそういうものを吸い込んでいくか、というような学園体制づくりができれば良いなと思っています。

ですから、小中一貫教育のフォーラムを毎年やっているのですが、今年は1月に実践発表と言うか、いわゆる参観も兼ねてやろうということで、寒い時期ですのでどれだけ来てもらえるかわかりませんが、峰山中学校で立志式をやります。15歳になったということで。それを見てもらって、そのあとフォーラムをします。

(中山市長) 立志式ということは15歳ですので3年生ですか。

(教育次長) 発表は2年生がするのでは。

(米田委員-教育長-) 受験前ですからね。

(中山市長) シーズンとしては3月ぐらいですか。

(教育次長) 峰山中学校は1月9日の土曜日です。

(中山市長) 最終学年ですか。

(米田委員-教育長-) 普通立志式は15歳だけど2年生かも知れない。

(中山市長) だいぶ前からやっておられるのですか。

(米田委員-教育長-) いや去年ぐらいから。この一貫の取組としてやっています。

小学校では2分の1成人式をやっています。

(中山市長) それも最近ですか。

(米田委員-教育長-) それもこの一貫の取組の中で生まれてきました。

(中山市長) それは対外的にやられているのですか。

(教育次長) 出します。ケーブルテレビも来られると思いますし、代表者が一応保護者も関与しますので、体育館で何人かは発表するのですがそれは代表者ですし、クラスに帰ったらまた代表以外の子たちも、将来こういうふうになりたいということを入前で発表する場です。

(中山市長) 例えば30歳の成人式をやっておられる人がいるじゃないですか。15歳だったら2分の1、30歳の成人式ですよ。だからそういう人たちも入れて

何かしゃべらすとか。

(米田委員-教育長-) ゲストに招いて。

(中山市長) はい。立志式の倍ということで。

(教育次長) たぶん今年は間に合いませんが、そういうことも含めて、例えば30歳の人を招待するとか、

(中山市長) 招待していただければ、すぐに連絡はつきますよ。いろいろな成人式があって面白いと思います。

今、若い人を大切にするという、我々のまちのポリシーがあって、そこにもあてはまるじゃないですか。

(教育次長) それから先ほどありました、2分の1成人式はクラスの中で子どもたちが順番に自分のことを発表するのですが、参観日も兼ねているので、子どもが読むとお母さんたちはずっと泣きっぱなしです。「子どもの時からありがとう」「将来こういうふうにします」と、日頃言えないことを発表するので、大感激の場になっています。

(中山市長) 親としての成人式ですね。

(米田委員-教育長-) これも小中一貫の取組の中で生まれてきたことです。

それからこの小中一貫の取組の中で、幼稚園や保育所の年長も入れて、そして教員の集まりの中には所長さんや園長さんや、それから担任が入ったりしてやっています。そういう中で、今度は中学校と保育所・幼稚園、小学校と保育所・幼稚園の取組なんかもぼちぼちと出てきています。先日網野幼稚園が、京都府の公立幼稚園の発表会をしたのですが、その時は網野南小学校から応援に来まして、子どもたちが歌を聞かせて、他から来られた先生が「こんなのは初めてです」と喜んで帰られたのですが、そのような取組もして交流を深めています。

今日も新聞で、舞鶴で避難訓練の時に幼稚園か保育所の子を抱っこしながら避難している記事がありましたが、うちは既にやっているのだが宣伝が下手なのかなと思って見ていました。

(中山市長) 幼小中という打ち出し方と、小中という打ち出し方と、両方使い分けておられるのですかね。

(教育次長) 小中でやられているところは全国でも多いのですが、京丹後市の場合は就学前からやるということで、保幼小中という形でやっています。

(中山市長) 小中一貫は近いうちに全国的にするように国の方針か何かになりますよね。保幼小中を出した方が。

(教育次長) そうですね。インパクトがありますね。

(森委員) この前、地元の小学校の発表会に行かせていただいたのですが、受付のところに来年入学して来る子どもたちの名簿もありまして、今までにはないことだなと思いました。子ども園から案内をもらったと、何人か来ていました。

驚いたのが、中学生のお兄さん、お姉さんが、小学校の発表会に来ていて、そのあと収穫祭もあったのですが、その場にもいました。中学校の発表会とかコーラスコンクールに小学生が招待されて、学校単位で行くというのは見ていたのですが、別に連れて来られたわけではなくて、個人的に数人来ている姿を見て、何か小中一貫の共生の部分と言ったらおかしいですが、学校から行くのではなく自らすすんで行くという、何かほっこりとした部分が見られて、とても良いことだなと思いました。

(中山市長) 自主的に来られるというのは良いことですね。

(森委員) 小学校の発表会に中学校も来て、年長の子も来てという、保幼小中が良い流れになっていることを肌で感じました。

(文珠委員長職務代理者) 連携ということで私も感じたことがあります。保幼小中をすすめて行くうえで、さらに高校との連携もあって、すごくすすんでいるなという感じがしています。

たまたま昨日、網野高校の丹後活性化プレゼンテーション大会を拝見する機会がありまして、企画経営科の3年生がグループに分かれて丹後地方を活性化する企画をプレゼンテーションするという大会です。今年で8回目ということですが、学校評議員をしているので審査員として入らせていただきました。

最優秀賞が、丹後の食を広めたいということで、長寿食を世界に広めていくのだと、外国の方にもたくさん来ていただいて、ヘルシーでおいしい食事を広めていこうという企画が1位でした。2位が、丹鉄ヒーローというグループで、丹後鉄道でヒーローショーをやって、たくさんお客さんに来てもらおうという企画でした。このプレゼンテーションを、明日、網野中へ行って生徒の前でしていくのだということでした。中高の一貫教育を意識しながら、また、高校を知っていただくということを意識しながらだろーうと思いますが、そうやって関係を持っていく。また、この前の文化祭にも中学生をたくさん招待して、クラブ活動を見ていただいたり、授業を見ていただいたりしていました。中高の連携も徐々に広がっているということも感じています。

(中山市長) 小中一貫の背景があって、中高が進みやすくなっているという面もありますかね。

福知山でやろうとしている中高なんかは、きちっと精査的にやろうとされているのですか。

(米田委員-教育長-) カリキュラムも組まれています。

(中山市長) 福知山の高校入試というのはなくなるわけですか。

(教育次長) 1クラスが中学校からそのまま高校に上がれるのではないですか。

(中山市長) もちろん、その中学校から行きたい場合は試験を受けて行くのですね。

(教育次長) そうですね。ただ、言い方に語弊があるかも知れませんが特進みたいなの

形ですね。中学校に入る時に、ある程度選抜されて中学校に入る。

(中山市長) 私立みたいな感じですね。

(教育次長) そうですね。現在、医者を育成したいということでした。

(中山市長) (3)の議題もあわせてご意見をいただければ厚みが出て良いと思います。(3)の議題は別に説明することはないですか。

(3) 地方創生と教育～他地域から転入してもらえる学校づくり～について

(教育総務課長) (3)の議題には地方創生と教育というタイトルを付けさせていただいています。先ほどからの話にもありますように、特色ある学校づくりというテーマで意見交換をしていただけたらと思っています。

今お話が出ていました府立福知山高等学校のパンフレットを付けさせていただいています。京丹後市のことではないので申し訳ないのですが、中高の一貫教育校としまして、府内には洛北高校、園部高校がありますが、この4月から府北部の一貫校として府立福知山高校でも始まったということです。パンフレットにもありますが、高校の附属中学校として40名が入学したということです。中学校から高校へあがっていくということで6年間を通じてということになるわけですが、この学校の特色は、京都府北部の医師不足に対応して医学進学プログラムを持って、医学部への進学者を養成していこうというところに大きな特色もあり、府下の高校では初めてのそういった分野での進学コースということで、府下一円から広い範囲で生徒が集まるような学校になっているということです。

(中山市長) それは中学からやるということですか。

(教育総務課長) 中学は基礎部分だと思います。

(中山市長) 入試があるわけでしょう。

(教育次長) 中学校に入る時に、ある程度小学校からの推薦みたいな形で選抜されるようです。

(中山市長) お医者さんコースへということですか。

(教育総務課長) 高校に入ってから医学に進学する部分とか、教員の養成プログラムみたいなものがあって、そういった専門のプログラムが作られている高校のようです。

(中山市長) 話の途中ですみません。単純な疑問は、高校に入る時から医者になりたいと思いつながらやるというのは、お医者さんの子どもならまだしもそれ以外は……。普通は特進コースみたいなものはあるけど、結果として医学部に行きたいというのは3年生ぐらいなればあるかも知れないが、別に医学部だけではなくて理学部や工学部やもっと幅を持って、医者も視野のうちに入れていけるけども、それ以外のところももちろん行けるように学習をしているというのが私学の一

般ですよ。最初からお医者さんだけとなると少しなんか。

(教育総務課長) お医者さんだけではないです。

(中山市長) だけではないのですか。

(教育次長) だけではないです。

(教育総務課長) そういう高校が今年できたということです。高校の話になりますと、京丹後市内でもカヌーで久美浜高校、レスリングで網野高校と、特色のある高校というのがありますが、さすがに義務教育での小中学校ではなかなか難しいという面もあるということですが、他からも来てもらえるような学校づくりというふうなことで一例として紹介をさせていただいて、話のネタにさせていただけたらと思います。

引き続き、今月初旬に海外の学校の方も視察をしてまいりましたので、ご報告させていただきます。

(企画政策課主幹)

企画政策課の服部と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。

海外実地調査の報告書を資料として付けさせていただいています。今月2日から3日にかけてニュージーランドの方へ視察、調査へ行ってきました。あわせてフィジーの方へは別の調査に行っていますが、教育の関係でニュージーランドの部分だけご報告させていただきます。

1 ページ目には今回調査に行った者の名簿を付けています。2 ページ目から調査についての報告になります。ニュージーランドのニュープリマスという町に行ってきました。オークランドから国内線に乗り換えて1時間程度の町です。人口が5万5千人程度で、京丹後市と同じぐらいの規模の町です。その市長にお会いさせていただいています。

3 ページ目にニュープリマス市長との面会ということで写真も付けていますが、京丹後市としては語学研修を進め、子どもたちの語学力を高めていくということで、そういった語学研修をニュープリマスの方で検討したいと、その際にはご相談をさせていただきたいという旨を市長の方にもお伝えしたところ、お手伝いできることがあれば遠慮なく言ってくださいという返事もいただいています。ちなみに4ページにも書いていますが、ニュープリマスは静岡県の三島市と姉妹都市の提携をしまして、写真にもありますように三島の市役所内に三島ルームという名前の部屋がありまして、直近では平成26年3月に春休みを利用してスピーチコンテストの優勝者の方や学校推薦の子どもたち、中学生8人、高校生1人をニュープリマスの方に派遣し、交流事業やホームステイなどをされています。町の方はとても穏やかで綺麗な町でした。

5 ページです。ニュープリマスの名所のひとつと言いますか、魅力のある場所としてウォークウェイという、ジョギングやサイクリングができる7kmの遊歩道

があります。当日はあいにく天気が悪く風もありましたが、走っている人もおられたり、小学生の植樹活動の展示もされていました。このようにたくさん空いているスペースがありまして、ボランティア活動をしたり、彫刻の過程を見せたりという活動をしているということでした。

6 ページからは、日本で言う中高生の年齢に該当する学校4校へ行ってまいりました報告です。6 ページは Spotswood College という学校です。男女共学の学校です。日本人留学生の高校2年生の女の子がいまして、話も聞かせていただきました。この Spotswood College は、職員にしても生徒にしてもとてもフレンドリーで、留学生を受け入れるような雰囲気を感じました。

8 ページに日本人留学生からの聴き取りということで、この高校生は千葉県の県立松戸国際高校に在籍していまして、将来英語の先生になりたいので高校受験の際に留学できる高校を選択して、1年間、この7月から行かれています。ニュージーランドの生徒と同じカリキュラムを受けて、ニュープリマスでの学校生活はとても楽しいということで、生き生きとしている印象を受けました。ニュープリマスで危険を感じたことはないということでしたし、英語のレベルは英検2級を持っておられるということです。この学校を選んだ理由については、叔母さんの家が近かったということがあり、今そちらの方にホームステイをされているということです。

9 ページには、New Plymouth Girl's High School ということで、女子校です。日本人留学生も2人おられるということですが、お会いすることはできませんでした。この学校につきましては、ニュージーランドで最も古く、洲で最も名声のある女子校です。学力の高い学校で、自分の学年より1学年上の勉強をされているような学校です。10 ページ、11 ページにもありますが、大変広い敷地で、寮も備えている学校です。

12 ページは、Francis Douglas Memorial College という学校で、今度は男子校です。留学生の方1人にもお会いさせていただきました。13 ページに授業風景や寮内の写真も付けています。14 ページに留学生からの聴き取りの内容があります。日本の高校には在籍はなく、中学校卒業後すぐにこちらの学校に入ったということで、英語力を高めたいので日本人の少ない町、学校を選び、英語をしっかり身に付けたいという思いでこちらの方へ行かれています。

15 ページは女子校になります。こちらの方はまだ留学生は受け入れておらず、来年1人予定をされていますが、留学生を迎え入れて国際人を養成したいという要望を強く持っておられる女子校です。

17 ページに全体のまとめを付けていますが、4校のどの学校も、留学生を受け入れることについては可能で、どちらかと言うと積極的に考えておられまして期間についてもフレキシブルに2週間でも1年でも可能ということです。授業内

容についても柔軟に対応していただけるということで、留学生の学力や希望に合うように相談しながら決めていくということです。

面会した留学生たちは本当に生き生きと学校生活を送っていて、充実感が感じられました。他の都市と比べて治安も良い町だということも聞いています。今後また、この4つの学校も考慮し、語学留学も検討していきたいと考えているところです。長くなりましたが以上です。

(企画総務部長) 同じような小さな町に、こんな規模の高校が4つもあって、その地域の生徒だけではなく、全国的に、ニュージーランドとか周りの方からも結構来られているので、先ほど言われたように、小さくなったから高校も縮小すべきだということではなく、他から呼んで来たりする仕組みもあっても良いのではないかとということも含めての報告です。

(米田委員-教育長-) 丹後の高校も他からどんどん来てもらえれば良いですね。

(企画総務部長) やっぱり寮がきちり整備されていて、個人のプライバシーに配慮した良い寮ですし、この国はホームステイが非常に充実しているところですので、地域としても受け入れているということです。

(中山市長) 京都府の方で、教育委員会を中心に高校再編のご議論を、北部中部で委員会を設けてやっておられるようですが、京丹後からは委員の方は選ばれなかったという点において京丹後は対象ではないという形でされているのかなと受け止めているのですが、そのうえで、是非我々の高校も、地域の中からだけだと少なくなってきたというのとはそういうことだと思うので、いかに大勢の人に京丹後に来ていただいて、そして素晴らしい教育を受けていただけるかということを考えるうえで、特色を生かした教科編成なり、先生方の布陣なり、地域のバックアップ体制なりをつくってやっていくことが、大切かなと思います。

高校の再編の議論はどうなっているのか私はわかりませんが。

(米田委員-教育長-) 高校の再編の議論は、いわゆる高校の在り方、検討会議というのが今年のいつ頃からか持たれました。その経過は私はわかりませんが、京丹後からはメンバーに入っていませんが宮津からは入っていて、企業からと校長会から入っているようです。それなら京丹後は関係ないのですねと言っていたら、関係あると言われました。

(中山市長) それはあり得ないと思います。関係あるのならメンバーに入れてもらわないと。

(米田委員-教育長-) まず全体で、京都府の今後の人数と、高校の在り方、適正な配置を考えるのだと。それから地域ごとにこの検討会を作ると言っていました。

(中山市長) 地域ごとに作る時に、縮小を前提に結論を出すのであれば、縮小を前提にした全体の検討会の中に入れていただかないと、そんなのは話にならないと私は京都府に言います。

(米田委員-教育長-) 振興局とか、市長部局とか、府立高校・小中の校長、産業界の意見を聞くと言われていましたので、おそらく何かあると思います。

(中山市長) 増やしていく議論をするなら大賛成ですが、少なくなるから縮小するのだという前提なら、まず前提を議論しないと話になりませんね。福知山でこういうふう呼び込もうとされているのなら、我々のところでも呼び込むための議論をしていただきたいということです。

(企画総務部長) 日本だけではなく、外国からも呼び込んでもらえるような。

(中山市長) そうですね。

(企画総務部長) ニュープリマスに行ったのはそういう意味もありますので。

(野木委員) すみません。最初の教育大綱の議題の中で、細部にわたっての意見をもう少し入れれば良かったなと思うところがありますと言いましたが、それは食育の部分なのです。食育の部分が、テーマ的にはちょっと少なく、もう少し言えば良かったなと心残りがあります。

そういう中で、峰山高校の弥栄分校というのは、これからの京丹後市において非常に大きな役割を持っている学校だと思っています。先日も校長先生に、是非弥栄分校の生徒たちに経営を学ばせて、農業がこの地域の市産業になるべく教育をすることはできないかと、話をしていたのです。真っ先に弥栄分校がどうなるかわからないという議論がある中で、絶対に京丹後市としてもしてはいけないし、日本としてもこういう学校は残すべきなのです。それは、小中高一貫の流れの中でも、是非農業に従事して、経営も学んだ人がしっかりそこで農業を学ぶというような方針を是非持ってほしいと思っていますので、市長には頑張ってくださいと思います。

(中山市長) その通りだと思いますし、この際、農業と食の関係では、弥栄の方でいろいろなことを学びながらやっていく機会をつくって、弥栄で農業と食を学ぼうという感じで畿外から来ていただけるようになるぐらい頑張ってもらってやっていく。地方創生が問われている中だからこそ中で頑張らないと、人口が厳しいと言われる中だからこそ逆に若い人を呼び込むためにどういうことを生かしていくかという視点が大切なのは当然のことですからね。間人分校も海沿いという環境を生かして、例えば漁業の関係で何か勉強するようなことも加えて、間人と弥栄の両方で食全体のことをやっていくみたいな感じで。私の今の話は単なるブレインストーミングですが、いろいろそういう希望ある展望を地域で語りながらこうしようああしようと言ってやっていく部分があっても良いと思うのですが。海洋高校もあります京丹後だって海があるわけですので。

(企画総務部長) 京丹後市の市立高校を作るのはどうでしょう。

(中山市長) それ面白いですね。

間人分校は夜間ではありませんね。学ぶ編成としては通常のものでしょうか。夜間

は全くなかったですか。

(教育次長) ないですね。

(米田委員-教育長-) 昔は峰山高校にあったかな。

(教育次長) 網野高校にもありました。

(中山市長) そろそろ時間になりましたが、特に何かございますか。

なければ、総合教育会議としての議事はこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

4 その他

(企画総務部長) 4のその他の部分で何かありませんか。特にありませんか。

なければ第2回京丹後市総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。